

金曜の会

期日 4月12日

場所 倉敷労働会館

参加者 O HA AK YO AR

内容

書籍紹介『本の読み方』平野啓一郎（O）

映像「雪とけて〜」（AR）

映像「雪とけて〜」（AK）

【前半】

国語，特に文学作品を教材にした授業で，子ども達は何を学ぶのだろうか。授業を受ける前後で何が変わるのだろうか。それが，「情景描写にも登場人物の心情が表れているね。」程度でよいのだろうか。そのようなことは，もともと感覚的に分かっているのではないだろうか。文学作品に対する読みというものを，感性に任せてしまうのはまずいのではないだろうか。そのようなことを感じさせられる，『本の読み方』の内容でした。

そもそも，脳は好きなものよく使うものを「必要なもの」と位置づけ，検索性を高く（いわゆる記憶として定着しやすく）します。逆に，嫌いなものは「不要なもの」と位置づけ，検索性を低く（いわゆる記憶をしづらく）します。好きこそものの上手なれは脳科学にも裏付けられています。まず，まず文学教材の授業を好きにしなければ・・・，と思った結果が楽しさ偏重。自分の学級の映像からはおふぎけの雰囲気は漂い，集中していない子も放置されています。ただ，ビデオに撮ったことでそうしたことをはっきりと確認できました。そして，今の良いところを活かしながら修正可能のようにも思います。来週のステップアップを目指します。

AKさんの映像からは，楽しんで授業を受けている子どもたちの様子が伺えます。ただ，ほぼ同数の集中していないこの姿も・・・。AKさんも，私の学級と同じくこれからです。お互いがんばりましょう。AR

【後半】

○授業映像から

今日は，AK先生とHA先生の授業映像を見せていただきました。両学級ともに子どもたちの発言や反応が活発で，とても第一週目とは思えませんでした。先生達のアクティブさが子どもたちの姿に表れていたように思います。これからの課題としては，教師が進めることをいそがないで子どもの実情

に合わせてじっくりとやっていくことが大切だと分かりました。話し合いに入っていない集中力を欠いた子どもたちへの目配りも重要です。また、自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見をしっかりと聴き取ることも大切です。貴重な映像を、ありがとうございました。Y O